

うみんちゅ

海人を 追いかけて

沖縄県立那覇工業高等学校

グラフィックアーツ科

糸数月香・屋比久優妃・知念美音

私たちは、沖縄県国頭村の漁協組合で
一人のベテラン漁師に出会った。

彼は通常だと20人がかりで行うような
「追い込み漁」を、一人で出来てしまう方法を、
およそ8年かけて開発したこともある漁の達人だ。

彼は漁協組合スタッフや漁師の仲間から
尊敬を込めて、「勝さん」と呼ばれている。



Photo by 沖縄県立那覇工業高校写真



勝さんは三線にギター、二胡の演奏がうまくて、琉歌も嗜む詩人だ。

私たちと会う時は、いつも歌ったり演奏したりしながら、色んなお話をしてくれる。

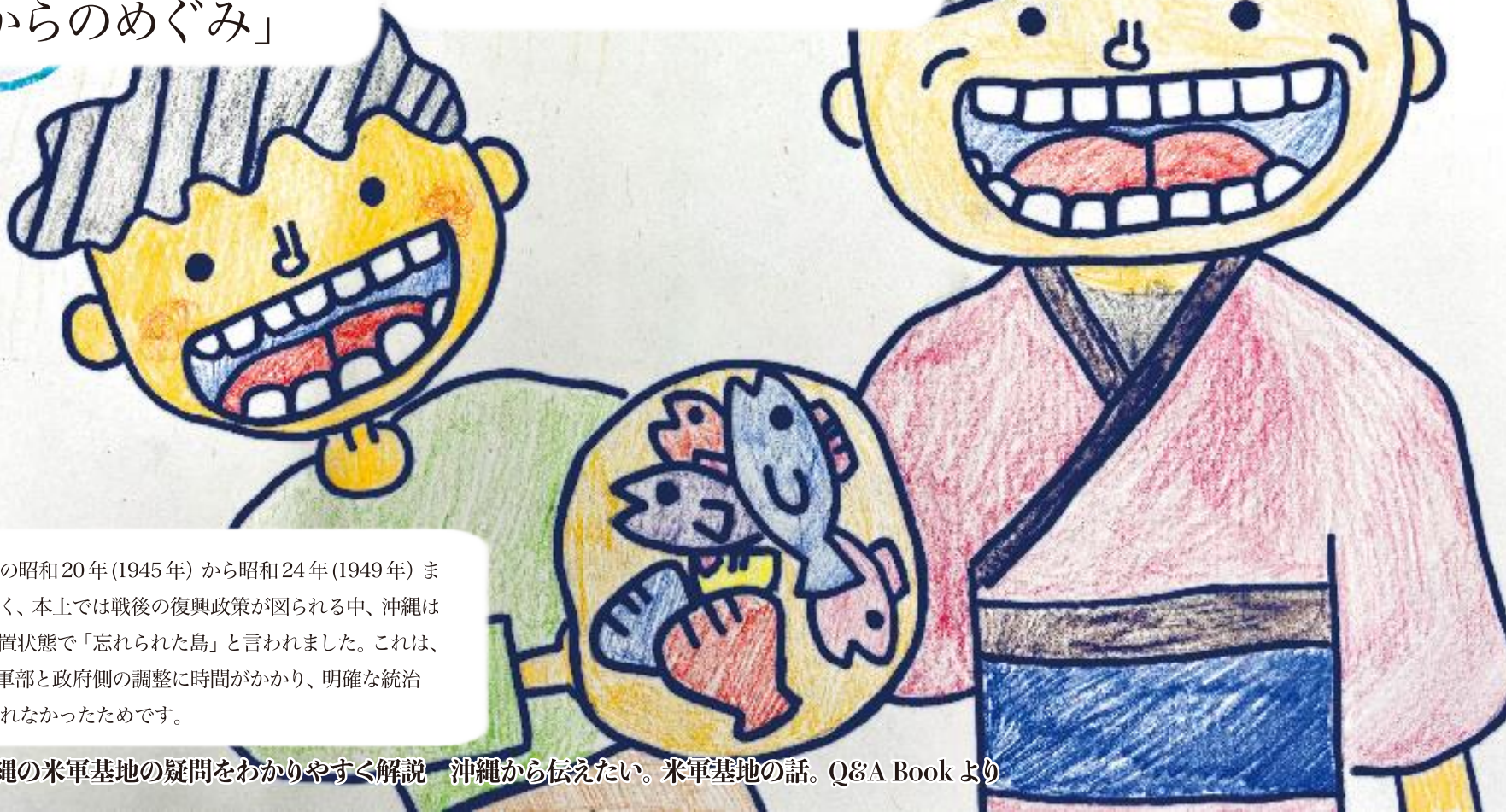


勝さんは「沖縄戦」戦後の体験者だ。物のない戦後を、知恵と、アイデア、思いやりや独創性で、力強く生き抜いてきた。勝さんは今、沖縄の海や沖縄の今後について憂いている。



戦後の沖縄は、
地上にある畑や家畜、
食べ物は全て焼けて
食べるものといえば、
「海からのめぐみ」

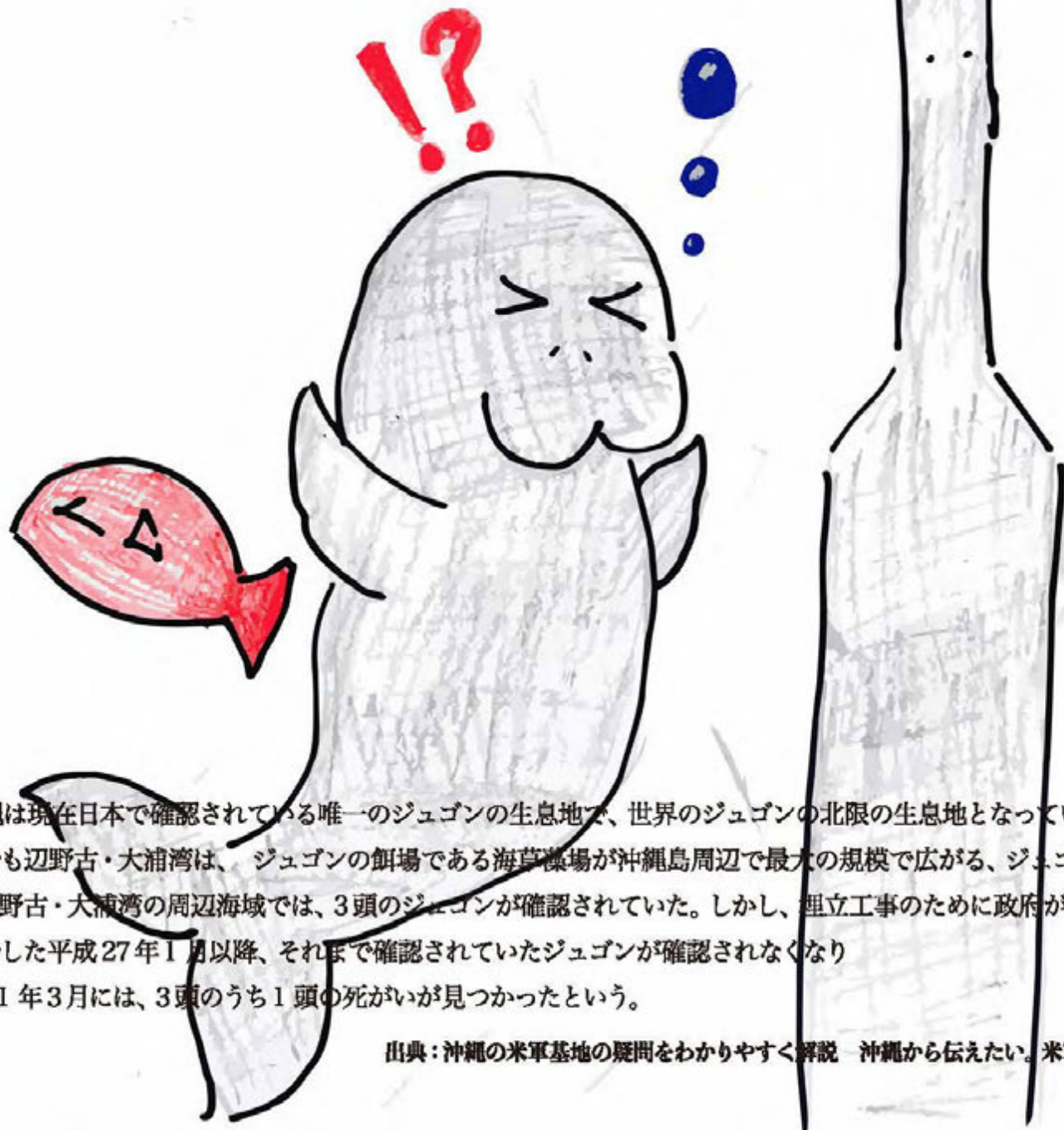
だけが頼りだったそう。
勝さんは子供のころ、
母親に喜んでもらいたくて
海で魚や貝をとってきた。



※戦後すぐの昭和20年(1945年)から昭和24年(1949年)までの5年近く、本土では戦後の復興政策が図られる中、沖縄はほとんど放置状態で「忘れられた島」と言われました。これは、アメリカの軍部と政府側の調整に時間がかかり、明確な統治政策が図られなかったためです。



勝さん達漁師が漁業を営む沖縄北部の海では現在、辺野古新基地が造られようとしている。辺野古・大浦湾周辺の海域には、ジュゴンをはじめとする絶滅危惧種262種を含む5,300(プランクトンを含めると約5,800)種以上の生物が確認され、生物種の数是国内の世界自然遺産地域を上回るそうだ。



沖縄は現在日本で確認されている唯一のジュゴンの生息地で、世界のジュゴンの北限の生息地となっているようだ。なかでも辺野古・大浦湾は、ジュゴンの餌場である海草藻場が沖縄島周辺で最大の規模で広がる、ジュゴンの生存にとって非常に大切な場所。辺野古・大浦湾の周辺海域では、3頭のジュゴンが確認されていた。しかし、埋立工事のために政府が大型コンクリートブロック等の投入を開始した平成27年1月以降、それまで確認されていたジュゴンが確認されなくなり平成31年3月には、3頭のうち1頭の死がいが見つかったという。

あの沖縄戦がおわったとき
山は焼け 里も焼け 豚も焼け
牛もやけ 馬もやけ
陸のものは すべて焼かれていた
食べるものと言えば
海からの恵みだったはず
その海への恩がえしは
海を壊すことではないはずだ
(海人 山城善勝)



海を、あきらめない・・・！！

私たちは今、この海域が育む命と自然がかげがえのないものであることに
気がつき、この美しい海を守りたいと、切に願っています。



私たちは、もっともっと、ウミンチュの勝さんから話を聞いて、
沖縄の海のことを学び、この海の素晴らしさ、美しさ、
かけがえのなさを伝え、守れるように、
強い大人になっていきたいと思います。
勝さん、いつも、ありがとう。

